字幕・音声ガイド付きユニバーサル上映

みらいシネマFUKUOKA第一回上映会

第37回 東京国際映画祭
Nippon Cinema Now 部門
正式出品

震災を知らない　わたしの物語

みんなもろい
街も、家族も、
わたしの心も

港に灯がともる

THE HARBOR LIGHTS

5/5（月・祝）**福岡市科学館** サイエンスホール
（福岡市中央区六本松4-2-1）

・13:00～　映画上映
・15:15～　ゲストトーク
参加費/1000円（高校生以下と視覚障がい者の介助の方は無料）
主催/NPOみらいシネマFUKUOKA
共催/九州シネマ・アルチ
協力/バリアフリーシアターエイムing

富田望生

伊藤万理華　青木柚　山之内すず　中川わさ美　MC NAM　田村健太郎
土村芳　渡辺真起子　山中崇　麻生祐未　甲本雅裕

監督・脚本　安達もじり　脚本　川島天見　音楽　世武裕子

エグゼクティブプロデューサー：大角正　プロデューサー：城谷厚司　堀之内礼二郎　安成洋　取材：京田光広　写真：平野愛
特別協力：全国映画センター　助成：文化庁 文化芸術振興費補助金（日本映画製作支援事業）｜独立行政法人日本芸術文化振興会

阪神・淡路大震災から３０年

minatomo117.jp

ストーリー

1995年の震災で多くの家屋が焼失し、一面焼け野原となった神戸・長田。かつてそこに暮らしていた在日コリアン家族の下に生まれた灯(富田望生)。在日の自覚は薄く、被災の記憶もない灯は、父(甲本雅裕)や母(麻生祐未)からこぼれる家族の歴史や震災当時の話が遠いものに感じられ、どこか孤独と苛立ちを募らせている。一方、父は家族との衝突が絶えず、家にはいつも冷たい空気が流れている。ある日、親戚の集まりで起きた口論によって、気持ちが昂り「全部しんどい」と吐き出す灯。そして姉・美悠(伊藤万理華)が持ち出した日本への帰化をめぐり、家族はさらに傾いていく―。なぜこの家族の下に生まれてきたのか。家族とわたし、国籍とわたし。わたしはどうしたらいいのだろう―。

圧倒的な取材量を基に、アフター震災世代をリアルに描くオリジナルストーリー

公式Instagram・Xアカウント：@minatomo117

本作は２０２１年に公開された『心の傷を癒すということ』を契機に、表情豊かな港町・神戸から世界へ響く映像作品を届けようと立ち上げられた「ミナトスタジオ」の船出作品。主人公・灯の苦しみや葛藤、成長を見事に演じ切ったのは今作が初の映画主演作となる富田望生。監督は２０年以上にわたり、NHKの演出家として「カムカムエヴリバディ」など数々のドラマを手掛けてきた安達もじり。神戸で暮らす人びとへの膨大かつ綿密な取材を基に、震災後をリアルに描くオリジナルストーリーを作り上げた。

映画「港に灯がともる」で初主演

俳優 富田 望生さん

役作りしなくてよかった

撮影・橋爪拓治

映画「港に灯がともる」で初主演です。1995年の阪神・淡路大震災から1カ月後の神戸で、在日コリアン家族の元に生まれた灯（あかり）を演じます。

震災の記憶もなく、在日コリアンだという自覚も薄い灯。家族との衝突がたえず、心を病みます。震災や双極性障害、在日コリアンと重く難しいテーマに挑みました。

「残るべき作品ができたと思っています。それは私だけでなく、監督含めスタッフや協力してくださった町の皆さんにもきっとその感覚があるだろうなと思うので（主演だから）一人で背負うことではないな、と」

これまでは「役を演じるまでに、緻密に下調べをしてピースを埋めていかないと現場に行けないタイプ」でした。今回は、安達もじり監督と「その場で起きていることを大切にしていこう」と話し合ったといいます。

「〝灯〟がこの街でどう生きてきて、どう感じているのか。丁寧に、灯として感じていくしかないなと。だから今回、〝役作り〟はしていないんです」

自身は11歳の時、地元福島県で東日本大震災を経験。当初、「自分の体験は、震災を経験していない灯を演じる上ではプラスにはならないのでは」と悩みました。

撮影に入る前、もじり監督が、灯が住む神戸の町の、地形や地域性、〝面白さ〟を語ったことが印象に残っている、と言います。撮影期間は他の仕事は入れず、約2カ月間、神戸で暮らしながら撮影しました。

「街を感じるところからもじり監督の演出が始まっていたのかなと。実際、神戸に入って暮らしていくあいだに、『もう大丈夫』と灯になれた。私自身にとっても、新しい役への近づき方でした」

照れ笑いや時に涙ぐみながら、丁寧に言葉を紡ぐ姿に人柄がにじみます。

2015年、15歳のとき、映画「ソロモンの偽証」でデビュー。ドラマ、舞台、歌など活躍の場を広げてきました。

連続テレビ小説「ブギウギ」で演じたスズ子の付き人〝小夜ちゃん〟も「出合えてよかった役」と。役を生きることで、自分では普段考えないことを感じるのが面白い、と語ります。

「演じることが好きなんです。最近、より一層、より演じることに向き合いたい意識が高まっていて。作品が残るものだということに責任と覚悟をしっかり持ってオファーをお受けしたいです」

デビュー10年。これからやりたいことは。

「先日デビュー作のみんなと〝同窓会〟をしたんです。15、16歳だったのが、みんな、お酒を飲める年になっていて。この10年間を振り返るきっかけになりました」

「これまで出会ってきた人たちを改めて大切にしたい。監督や役者さん、クリエイターの方たちと、もう一度何か形にできたらいいなと思っています」

北野ひろみ記者

次号は俳優の奈緒さんです。

とみた・みう＝2000年、福島県生まれ。主な作品に映画「ソロモンの偽証」、「SUNNY 強い気持ち・強い愛」、ドラマ「ブが、情熱はある」、連続テレビ小説「ブギウギ」など。「港に灯がともる」は17日から全国順次公開。119分